

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700023		
法人名	医療法人 三善会		
事業所名	グループホーム めくもり		
所在地	愛知県津島市菜苺町字綿掛55番地		
自己評価作成日	平成30年10月 1日	評価結果市町村受理日	令和元年 5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JivvosyoCd=2392700023-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出を多く取り入れたり、様々なボランティアによるイベントへの参加、同法人内の他施設との連携、又利用者が自分たちで出来る事を取り入れたレクリエーションを活用する等で張りのある日々が過ごせるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が経営するグループホームで、隣接する病院・老健・デイサービスと共に医療・看護・介護を行う複合施設の一つである。相互にサービス面での連携が期待でき、利用者の状態に応じて関連施設への移動がスムーズに行える体制が確立されている。利用者や家族、職員の安心に繋がっている。
2ユニット構成のホームで、通常はユニット長を中心に日々の介護サービスが行われている。ホーム長・ユニット長・職員間相互の連携はとれており、風通しの良い職場環境である。
職員の提案で採り入れられた毎週木曜日の「外出デー」が徐々に定着しつつあり、利用者や職員に潤いをもたらしている。玄関に飾られた利用者作の活け花や切り絵・貼り絵が、訪問者に安らぎと季節感を与えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念だけではなく、ぬくもりの理念を職員と考え実践につなげられるように努める。	数年前、現管理者の下で作ったホーム理念はやや抽象的であったためか、職員間の共有にまで至らなかった経緯があり、やや消極的になっている。ホーム長が中心となって取り組む意向はうかがえた。	職員の自主性に重きを置いた、誰が見ても解りやすく共有しやすい理念作りを目指していかれることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア、お寺さん月祭り、幼稚園の七夕祭りなどをとおして交流し地域と繋がりがながら暮らしている。地域のボランティアさんがこられ利用者様と歌を唄われたり、話しをされている。	地域ボランティアによる歌・傾聴・生け花等の訪問を受けている。ホーム行事の開催は実現しておらず、ホームへの近隣住民の招待はない。福祐寺住職の読経・法話サービスは続いており、定例行事となっている。	過去の訪問調査で提案した情報発信手段としてのホーム便り「ぬくもり新聞」が定着してきた。さらに、地域の中で認知症の中核的な施設としての活動を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方などにグループホームや認知症の事など理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見をサービスの向上に役立てている。	奇数月に家族、市・地域包括職員、民生委員、寺の住職、関連施設職員などの参加を得て開催している。利用者の状況・行事報告を行い、参加者から質疑・意見・提案が寄せられている。利用者・家族の参加はない。	家族等の参加が実現するよう努められたい。また、目標達成計画を発表し、ホームの取り組み姿勢と計画の進捗状況を報告すること望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で市の職員も出席されており、施設の状況など報告している。	運営推進会議には、市職員・地域包括支援センター職員のいずれかが参加しており、ホームの実情は伝わっている。市へは随時入居条件審査を依頼しており、困難事例は市と連携を図って運営に当たっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け身体拘束の廃止に取り組んでいる。 禁止の対象となる具体的な行為を理解して代替の方法を職員で話し合い実践している	玄関扉は事故予防から施錠しているが、屋内扉は全て開放しており、自由に行動できる。夏、終末期を迎えた利用者の点滴事故を防ぐため、家族了解の下に拘束措置を採った事例がある。介護労働センター主催の研修を交替で受講し、意識は高い。	研修受講報告を作成し、全職員に周知するなど、研修の効果を上げる工夫を望みたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士が注意をしあえる環境をつくり虐待防止に努めている。一人での対応が難しい時は声かけし応援を呼ぶなどして職員にもストレスをためないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援制度や成年後見制度について、勉強会や研修など少しずつ学ぶ機会を増やして行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限り説明し、理解をしてもらえるように努めている。また入居に不安な家族に対しては入居前にお試し体験入居の機会を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族と良好な関係を築き要望や相談など、話しやすい雰囲気作りに努めている。要望には出来る限り対応するように心がけている	運営推進会議に利用者・家族の参加がなく、日々のケアの中で、把握した要望をその都度職員間で共有し支援に繋げている。家族からの要望は、ホーム訪問時や電話での連絡時に聞き出すように心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとに申し送りノートがあり、意見や情報の共有が出来るようにしている。不定期ではあるがミーティングを行い職員同士の意見を反映しあえる場がある。ミーティングがなくても気楽に相談が出来る	ユニット会議で職員の意見・要望を聞き出し、ユニット長を中心に話し合っ解決する仕組みがある。「毎週木曜日は外出日」という職員の意見を実行に移すなど、職員の意見が運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいを持って働けるような職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部の研修を利用し職員のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はあまり無く、機会を作って交流の場を増やしていくようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や利用者様から要望をきき安心して生活できるように心がけている 事前に情報をえてスムーズに入居していただけるよう準備をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、申し込み時に家族からの要望や本人の希望を聞き話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の話や本人の状況を職員間で話し合い必要なサービスは何か見極める事が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全てを介助するのではなく双方が助け合うものという気持ちで取り組んでいる。 何が出来るか出来ないかを見極めさりげない支援が出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に状況など説明して家族の話聞き利用者にとって何が大切かを一緒に考えていくよう努めている。家族が面会に来易い雰囲気作り努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、近所の方の面会も歓迎し、気楽に来られる雰囲気作りを大切にしている。	知人・家族の訪問により、利用者は楽しい時間を過ごしている。関連施設の知人に会いに行く利用者もいており、関係の継続を支援している。計画表を作って馴染みの喫茶店へ出掛け、外出支援の一環としている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の中にスタッフが入れなどし関係を作れるようにしたり、家事やレクリエーションなどを通じてお互いが自然に係わり合い、協力し合える環境になるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談があれば適切な対応に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から話を聞いたり、普段の生活や行動、発言から希望や意向を把握できるよう心がけている。	毎日の生活の中で、自立している利用者には意思を確認しながら、思いを訴えられない利用者には、素振りや生活歴などから意向を汲み取る工夫をしている。寄り添う時間を多くして、反応を見る努力を続けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や利用者様にどんな生活をしてサービスの利用に至ったかを聞き把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や申し送りノート、職員間の話し合いにより情報の共有をし状態を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活状況や希望、家族の要望をユニット内で話し合い本人に最適と思われる介護計画を作成できるように努力している。	担当職員が、毎月介護計画の支援項目の達成状況を「プラン実行表」に記載して一覧化している。概ね3ヶ月ごとに各ユニット単位で検討し、介護計画の内容の達成状況により、さらにその人らしい計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活を分かりやすいように生活記録へ記録し、ユニット別の申し送りノートも活用し情報を共有しながらスタッフ同士で意見を出し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の要望、状況や状態の変化に合わせたサービスの提供が出来るよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の幼稚園の行事に参加をしたり、喫茶店へ行くなどして地域との関わりを大事にし安心して生活していただけるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員が付き添い定期的に受診し家族の要望があれば医師に伝えたり、医師から家族へ直接状態の説明をされたりしている。	殆どの利用者が隣接する医療法人をかかりつけ医に変更しているが、家族対応で他病院を受診する利用者もいる。歯科は往診があり、他科受診は職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、定期的に看護師が来られ、利用者の状態を把握されている。定期訪問以外にも利用者を見に来られたり、職員が気になることを看護師に相談しやすい環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や看護師など病院関係者と情報交換をし退院後の生活が本人にとって最適な状態になるよう話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化を見ながら、家族や医師、職員間で話し合い出来ることを見つけ出していく。	入居時に、ホームでの看取りは行わない事を伝えている。しかし、利用者の状況に合わせて最終決定しており、今年も一人の利用者の看取りを行った。複合施設の強みを生かして、状態に変化があれば法人内での住み替えも可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは作成してあるが実践力は職員によってばらつきがあり、今後研修などを通してスキルを上げていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回防災訓練を行っている。	年に2回火災想定で避難訓練を行っている。通報訓練後、利用者全員を外庭まで誘導し、消火訓練を行っている。水害時は、ホームより建物が高い隣接の老健施設に避難をすることになっている。	消防署への協力要請の下に、AEDの使用法の訓練(救急救命講習)も取入れることを提案したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格やその時の表情などを見て声掛けの仕方や言葉使いに気をつけている。一人の職員だけでは気がつかない事があるのでお互いに注意し合うようにこころがけている。	利用者を人生の先輩として尊敬し、声掛けにも注意している。不適切な声掛けがあれば、その場で職員同士で注意している。訪問時も居室に入る時には声掛けし、ドアノックしている職員の姿が確認できた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を伝えやすいような環境作りと利用者一人ひとりに応じた声のかけ方などを工夫して普段から話しやすい関係作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを崩さない程度に家事などを手伝っていただいたり、入浴をしてもらったりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な服装身だしなみを心がけて、普段からお化粧品や服装で気分が変えられるような支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で調理などにかかわっていただき希望に応じパン食等を提供している。野菜を切ったり盛り付けたりテーブル拭きやお絞りの準備などを一緒に行っている	利用者の出来る事の維持のため、食材をユニットごとに分けたり、材料を洗ったり、盛り付けなどのるなど、食事の準備を一緒に行っている。利用者の好みを聞き出し、栄養士に伝えて献立に反映させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量のチェックを行い少ない方には医師に相談し補助食を提供している。スタッフ同士で話し合い食事形態や量などそれぞれに対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアと週2回義歯洗浄を行っている。自分で行う事のできない利用者には介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用しトイレへの声掛、誘導を行いトイレでの排泄を心がけている。排泄状態を把握し自立して排泄が出来るように努めている。	自立排泄できる利用者もいるが、排泄チェック表にて誘導を行い、パッドなどの利用を少なくしている。夜間、歩行が不安定な利用者には、自室で排泄が出来るようにポータブルトイレを置いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らないように水分補給や乳製品などを取っていただいたり、体を動かしたりしていただいている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきのペースで入浴していただき入浴時間は利用者様に尋ねたりしている。女性の利用者には入浴後のバックなどもしていただいている。	基本的に1日おきの午前中入浴となるが、利用者の希望があれば、職員の状況に合わせて夕方や毎日入浴にも対応している。入浴剤や季節の「ゆず湯・菖蒲湯」等を用意し、入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、リビングのソファや居室で休まれたりされている。寝具を清潔に保ち、居室の温度にも気を使うよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されている薬についての詳細は生活記録に保管し職員がいつでも確認できるようにしている。薬のチェック、服薬確認を徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や家事など出来ることを会話を楽しみながら職員と一緒にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や喫茶、季節に応じた花見など外出の機会を増やせるように努めている。	天候を見て、近隣の老健などに菊の花を見に出掛けたり、駐車場横のベンチでおやつを食べたりしている。おやつを買いに、少人数で買い物に出掛けたり、喫茶店に出かけたりしている。職員が見守る中、利用者がホームの中庭を自由に出入りしていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金から利用者様のほしいものまた、足りないものを買っていただいている。 お金を自分で所持していると落ち着かれる方には家族と相談し小額を自分で管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなど利用者と一緒に作り家族へ送っている。 希望があれば本人と家族が電話で連絡を取り合う事が出来る		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けや外出、行事など日々の写真を飾り楽しんで頂いている 利用者様の状況によって室温の管理もしている。	共有空間は広く、季節の赤とんぼの制作物が何匹も天井を飛んでいる。外出時の思い出の写真も飾ってある。ソファでは、昼食後の3人が、寛いで話に興じている。ユニット間の扉は開放されており、利用者が自由に行き来が出来るようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルで会話等をして過ごされたり一人や気の会う方とソファでリラックスして過ごされる方も見える。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や布団を使用されたり、自分の好みで家具の配置をされている。 掃除や部屋の片付けも利用者様と一緒にやっている。	居室は広く、動きやすい様に家具が配置されている。自宅より持参した絨毯が敷かれた居室やソファの置いてある居室もあり、自慢の孫の写真を見ながら思い出話をしてくれる利用者もいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドや家具を使用しやすい位置に配置し出来る限り自立した生活が送れるようにしている。自分の居室が分からない方には入り口を飾るなどして工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700023		
法人名	医療法人 三善会		
事業所名	グループホーム めくもり		
所在地	愛知県津島市薬茱町字綿掛55番地		
自己評価作成日	平成30年10月 1日	評価結果市町村受理日	令和元年 5月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出を多く取り入れたり、様々なボランティアによるイベントへの参加、同法人内の他施設との連携、又利用者が自分たちで出来る事を取り入れたレクリエーションを活用する等で張りのある日々が過ごせるようにしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2392700023-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年11月12日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念だけではなく、ぬくもりの理念を職員と考え実践につなげられるように努める。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア、お寺さん月祭り、幼稚園の七夕祭りなどをとおして交流し地域と繋がりがりながら暮らしている。地域のボランティアさんがこられ利用者様と歌を唄われたり、話しをされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方などにグループホームや認知症の事など理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見をサービスの向上に役立てている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で市の職員も出席されており、施設の状況など報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け身体拘束の廃止に取り組んでいる。 禁止の対象となる具体的な行為を理解して代替の方法を職員で話し合い実践している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士が注意をしあえる環境をつくり虐待防止に努めている。一人での対応が難しい時は声かけし応援を呼ぶなどして職員にもストレスをためないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援制度や成年後見制度について、勉強会や研修など少しずつ学ぶ機会を増やして行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限り説明し、理解をしてもらえるように努めている。また入居に不安な家族に対しては入居前にお試し体験入居の機会を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族と良好な関係を築き要望や相談など、話しやすい雰囲気作りに努めている。要望には出来る限り対応するように心がけている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとに申し送りノートがあり、意見や情報の共有が出来るようにしている。不定期ではあるがミーティングを行い職員同士の意見を反映しあえる場がある。ミーティングがなくても気楽に相談が出来る		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいを持って働けるような職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部の研修を利用し職員のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はあまり無く、機会を作って交流の場を増やしていくようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や利用者様から要望をきき安心して生活できるように心がけている 事前に情報をえてスムーズに入居していただけるよう準備をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、申し込み時に家族からの要望や本人の希望を聞き話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の話や本人の状況を職員間で話し合い必要なサービスは何か見極める事が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全てを介助するのではなく双方が助け合うものという気持ちで取り組んでいる。 何が出来るか出来ないかを見極めさりげない支援が出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に状況など説明して家族の話聞き利用者にとって何が大切かを一緒に考えていくよう努めている。家族が面会に来易い雰囲気作りに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、近所の方の面会も歓迎し、気楽に来られる雰囲気作りを大切にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の間にスタッフが入るなどし関係を作るようにしたり、家事やレクリエーションなどを通じてお互いが自然に係わり合い、協力し合える環境になるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談があれば適切な対応に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から話を聞いたり、普段の生活や行動、発言から希望や意向を把握できるよう心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や利用者様にどんな生活をしてサービスの利用に至ったかを聞き把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や申し送りノート、職員間の話し合いにより情報の共有をし状態を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活状況や希望、家族の要望をユニット内で話し合い本人に最適と思われる介護計画を作成できるように努力している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活を分かりやすいように生活記録へ記録し、ユニット別の申し送りノートも活用し情報を共有しながらスタッフ同士で意見を出し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の要望、状況や状態の変化に合わせたサービスの提供が出来るように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の幼稚園の行事に参加をしたり、喫茶店へ行くなどして地域との関わりを大事にし安心して生活していただけるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員が付き添い定期的に受診し家族の要望があれば医師に伝えたり、医師から家族へ直接状態の説明をされたりしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、定期的に看護師が来られ、利用者の状態を把握されている。定期訪問以外にも利用者を見に来られたり、職員が気になることを看護師に相談しやすい環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や看護師など病院関係者と情報交換をし退院後の生活が本人にとって最適な状態になるよう話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化を見ながら、家族や医師、職員間で話し合い出来ることを見つけ出していく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは作成してあるが実践力は職員によってばらつきがあり、今後研修などを通してスキルを上げていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回防災訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格やその時の表情などを見て声掛けの仕方や言葉使いに気をつけている。一人の職員だけでは気がつかない事があるのでお互いに注意し合うようにこころがけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を伝えやすいような環境作りと利用者一人ひとりに応じた声のかけ方などを工夫して普段から話しやすい関係作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを崩さない程度に家事などを手伝っていただいたり、入浴をしてもらったりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な服装身だしなみを心がけて、普段からお化粧品や服装で気分が変えられるような支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で調理などにかかわっていただき希望に応じパン食等を提供している。野菜を切ったり盛り付けたりテーブル拭きやお絞りの準備などを一緒に行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量のチェックを行い少ない方には医師に相談し補助食を提供している。スタッフ同士で話し合い食事形態や量などそれぞれに対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアと週2回義歯洗浄を行っている。自分で行う事のできない利用者には介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用しトイレへの声掛、誘導を行いトイレでの排泄を心がけている。排泄状態を把握し自立して排泄が出来るように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らないように水分補給や乳製品などを取っていただいたり、体を動かしたりしていただいている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきのペースで入浴していただき入浴時間は利用者様に尋ねたりしている。女性の利用者には入浴後のバックなどもしていただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、リビングのソファや居室で休まれたりされている。寝具を清潔に保ち、居室の温度にも気を遣うよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されている薬についての詳細は生活記録に保管し職員がいつでも確認できるようにしている。薬のチェック、服薬確認を徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や家事など出来ることを会話を楽しみながら職員と一緒にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物や喫茶、季節に応じた花見など外出の機会を増やせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金から利用者様のほしいものまた、足りないものを買っていただいている。 お金を自分で所持していると落ち着かれる方には家族と相談し小額を自分で管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなど利用者と一緒に作り家族へ送っている。 希望があれば本人と家族が電話で連絡を取り合う事が出来る		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けや外出、行事など日々の写真を飾り楽しんで頂いている 利用者様の状況によって室温の管理もしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルで会話等をして過ごされたり一人や気の合う方とソファでリラックスして過ごされる方も見える。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や布団を使用されたり、自分の好みで家具の配置をされている。 掃除や部屋の片付けも利用者様と一緒にやっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドや家具を使用しやすい位置に配置し出来る限り自立した生活が送れるようにしている。自分の居室が分からない方には入り口を飾るなどして工夫している。		